



内政

1. 大統領の所信表明演説

5日、カーマ大統領は、国民議会において、所信表明演説を行った。同大統領は、2016年を振り返り、同年が独立50周年の記念すべき年であると共に国家開発計画「ビジョン2016」が新たに「ビジョン2036」へと移行する節目の年であると強調した他、今後、鉱業部門における多様化がボツワナ経済の多角化と成長の鍵となる等述べた。

(6日：デイリー・ニュース他各紙)

2. モロコメ法務長官の辞任

モロコメ法務長官は11年に亘る政府法律顧問としての立場を辞任する意向を示した。同長官は、法学博士号を取得し、ボツワナ大学法学講師を経て、高等裁判所裁判官を2年間務めた後、2005年から法務長官を務めていた。

(7日：ガゼッタ紙)

3. ドゥマ・ボコ野党党首が大統領所信表明演説へ反論

ドゥマ・ボコ野党「民主改革のためのアンブレラ」(UDC)党首は、国民議会において、先般行われた大統領による所信表明演説に対する反論演説を行った。同党首は貧困や雇用問題をはじめ、ボツワナが直面する多くの社会政治的な課題を取り上げ大統領演説を非難した。

(9日：デイリー・ニュース紙)

4. 野党連合協議が終結

野党ボツワナ議会党(BCP)と野党連合「民主改革のためのアンブレラ」(UDC)の協力協議が17日をもって完了し、野党連合は新たに「UDC+」と命名された。

(17日：ウィークエンド・ポスト紙)

外交

1. 新中国大使の信任状捧呈

11月29日、カーマ大統領はツァオ・ヤンボ新中国大使より信任状を受領。同大使はインタビューに対し、「中ボツワナ外交関係は過去41年間に亘り強化され、特に貿易、文化、教育、野生動物保護に関する2国間の協力において十分な成果を上げてきた。」旨述べた。

(1日：デイリー・ニュース紙)

2. カーマ大統領がカストロ・キューバ前国家評議会議長議長を追悼

11月30日、カーマ大統領は、フィデル・カストロ・キューバ前国家評議会議長の追悼のためキューバ大使館を訪れ記帳を行った。同大統領は、カストロ政権時代にキューバから得た教育、保健、スポーツ分野における支援に謝意を述べると共に、「カストロ議長が、植民地的支配開放のために果たした役割は偉大である。」と述べた。

(1日：デイリー・ニュース紙)

3. ボツワナと中国、カズングラに学校を

建設予定

マタンボ財務経済開発大臣とツァオ・ヤンボ中国大使は、カズングラ小学校建設に関する合意書に署名をした。この合意の下で職員棟、事務室、大型ホール等の建設が行われることになる。

(12日：デイリー・ニュース紙)

4. ボツワナ政府はガンビア大統領を批判

外務国際協力省は、ジャメ・ガンビア大統領の選挙結果受け入れ拒否を非難する旨のプレスリリースを発売した。ボツワナ政府は、ジャメ大統領が選挙結果の受け入れを拒否したことを非難し、民主的に選ばれたバロウ次期大統領に対し平和裏に権力を委譲するよう求めた。

(13日：メヒ紙)

5. キューバ大使の離任

9日、コラレ・キューバ大使の離任レセプションに出席したモラレ大統領府・統治・公共政策担当大臣は、同大使がボツワナの真の友人であり、保健、教育、スポーツなど、極めて重要な分野の支援において、惜しみない努力を行ったとして、その貢献を称え、感謝の意を表した。

(14日：デイリー・ニュース紙)

6. 新キューバ大使の信任状捧呈

ゲラ新キューバ大使がカーマ大統領に信任状を捧呈した。同大使はインタビューに対し、「2004年～2006年にボツワナで勤務して以来、再び大使としてボツワナに戻ることができ光栄。ボツワナとキューバは1977年の外交関係樹立以来、素晴らしい関係を維持してきた。2017年は両

国の外交関係樹立40周年の記念すべき年として良い1年にしたい。」旨述べた。

(16日：デイリー・ニュース紙)

7. ボツワナ政府がコンゴ（民）の大統領選挙延期を批判

外務国際協力省は、コンゴ（民）が憲法に従い本年実施すべきであった大統領選挙を延期すると決定したことに対し遺憾の意を表し、コンゴ（民）の関係者に対し、憲法で規定された責務に従うよう求めると共に、この地域の平和と安定を脅かす行為を慎むよう求めた。

(22日：メヒ紙)

経済

1. 経済指標

1) ボツワナの主要経済指数

・経済成長率

2016年第3四半期の経済成長率は、前期比マイナス0.8%（同年第2四半期の経済成長率は、前期比0.0%）。

・インフレ率

2016年11月は2.9%（同年10月は2.7%）。

・為替レート（FNB）

2016年12月30日

1 プラ=0.091米ドル

1 プラ=1.235南ア・ランド

1 プラ=10.77円

2016年11月30日

1 プラ=0.091米ドル

1 プラ=1.253南ア・ランド

1 プラ=10.31円

2. ダイヤモンド産業

1) Shrenuj 社はボツワナでの事業再開に関しデビアス社と交渉中

ダイヤモンド研磨及び装飾品販売のインド系企業 Shrenuj 社は、印本社での業績不振による債権者への支払い停止のため、ダイヤモンド原石割り当てを停止されていたが、2017年にボツワナで事業再開することを目指し、デビアス社と交渉をしている旨を発表した。

(2日：メヒ紙)

2) Karowe 鉱山、10億ドルを超す売上げ

Lucara Diamond 社は、2016年第4四半期の決算発表を行い、2012年6月に Karowe 鉱山で生産を開始して以来初の10億ドルを超える売上を達成したことを発表した。

(10日：ウイークエンド・ポスト紙)

3. エネルギー・資源

1) Botash 社は塩の事前包装事業を開始

ソーダ灰及び塩を生産するボツワナ政府系企業 Botash 社は、塩の500g及び1kgの包装を行った上で、ザンビアへ輸出する事業を開始した。

(21日：メヒ紙)

2) モルプレA改修工事遅延

ケボナン鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣は、モルプレA発電所1～4号機の改修事業の進捗率が、11月末日時点で52%であることを発表した。当初、同時期の予定進捗率を83%としていた。

(21日：ボツワナ・ガゼット紙)

4. ボツワナ航空は最優秀賞を受賞

南アフリカ空港会社(ACSA)は、2016フェザー賞で地域サービス部門の最優秀航空会社としてボツワナ航空を表彰した。同賞は南アフリカのO. Rタンボ国際空港でのボツワナ航空のパフォーマンスを評価したもの。

(5日：デイリー・ニュース紙)

5. ボツワナ統一歳入庁(BURS)は税収向上のため2017年に新システムを導入予定

BURSは、2017年1月1日から関税と税金の回収漏れを減らすとともに、会計処理能力を向上させるため、より迅速及び透明性が高いウェブベースの新しい関税管理システムを導入する旨を発表した。

(9日：メヒ紙)

6. ボツワナ中央銀行(BOB)、政策金利を維持

BOBの金融政策委員会は、政策金利を5.5%に維持することを決定し、物価安定の見通しは堅調で、中期的にターゲット・インフレ率は3～6%の範囲内にあるとの見通しを示した。

(14日：メヒ紙, 15日：デイリー・ニュース紙)

7. SACUからの輸入が最多

ボツワナ統計局の国際貿易に関する月間報告によれば、南アフリカ関税同盟(SACU)はボツワナの主な輸入元であり、今年10月の輸入額では、同地域からの輸入が77.7%(48億プラ相当)を占めていることを明らかにした。同月のアジアからの

輸入額は8.3%（5.86億プラ）、欧州連
合（EU）からは5.7%（3.52億プラ）
としている。

（22日：メヒ紙）

8. ボツワナはグローバルICT開発指標 でアフリカ5位

国際電気通信連合（ITU）が発表したI
CT開発指標によれば、ボツワナはアフリ
カで5位になった（世界ランクは108位）。
ボツワナは2014年にアフリカで5位に
なったが、2015年はガーナに抜かれ6
位となっていた。

（16日：ボツワナ・ガーディアン紙）